

東京工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	対話としての哲学・倫理入門
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	物質工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	検定教科書『倫理』、『公共』				
担当教員	村瀬 智之				
到達目標					
1. 複数の人々との対話の中で、しっかりと聴くこと、問うこと、その対話を楽しむことができる。 2. 哲学・倫理学が蓄積してきた知識をふまえて、批判的に考えることで、自身で新たな問題を立てることができる。 3. 複数の人々との対話および哲学・倫理学が蓄積してきた知識を通して、自らの考えを論理的に、かつ、説得的に表現することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	複数の人々との対話の中で、しっかりと聴くこと、問うこと、その対話を楽しむことができる。		複数の人々との対話の中で、聴くこと、問うことができる。		複数の人々との対話の中で、聴くこと、問うことが十分にできない。
評価項目2	哲学・倫理学が蓄積してきた知識をふまえて、批判的に考えることで、自身で新たな問題を立てることができる。		哲学・倫理学が蓄積してきた知識をふまえて、批判的に考えることができる。		哲学・倫理学が蓄積してきた知識をふまえて、批判的に考えることができない。
評価項目3	複数の人々との対話および哲学・倫理学が蓄積してきた知識を通して、自らの考えを論理的に、かつ、説得的に表現することができる。		複数の人々との対話および哲学・倫理学が蓄積してきた知識を通して、自らの考えを表現することができる。		複数の人々との対話および哲学・倫理学が蓄積してきた知識を通して、自らの考えを表現することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本授業では、哲学・倫理学が蓄積してきた知識の中から最重要な項目について学習するとともに、実際にクラスでの対話（議論）を通して哲学的に考える方法を学ぶ。授業計画には授業で扱うテーマがわかるようにあらかじめ「問い」を提示してあるが、これはあくまで一例である。実際の授業では、受講者が各人でテーマに沿った問いを立てること、そしてその問いについて一人で・みんなで考えること、表現すること（書く、話す）を重視する。				
授業の進め方・方法	授業では、講義の形で哲学史・倫理学史の知識を学習し、それを元にクラス全体ないしグループ、あるいは、紙上での対話を行なう。				
注意点	参加型の授業であるため、対話に積極的に参加することが求められる。積極的な参加とは、発言することだけを意味するのではなく、しっかりと聴くことも含まれる。そして、何よりも他の人の発言を受けて、自らが考えを深めることがもっとも重要な「積極的参加」の意味である。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション1 - 哲学対話ってどんなこと? -	授業の概要、到達点を理解する。	
		2週	イントロダクション2 - 哲学対話ってどんなこと? -	授業の概要、到達点を理解する。	
		3週	哲学の始まり1	哲学という学問がどのように始まり、哲学するとはどのようなことかを理解する。	
		4週	哲学の始まり2	哲学という学問がどのように始まり、哲学するとはどのようなことかを理解する。	
		5週	哲学の始まり3と、哲学対話の実践	哲学が始まった当時の議論を学びながら、自分たちの問題について考える。	
		6週	哲学の始まり4と、哲学対話の実践	哲学が始まった当時の議論を学びながら、自分たちの問題について考える。	
		7週	中間試験		
		8週	哲学の始まり5	哲学が始まった当時の議論を学びながら、自分たちの問題について考える。	
	2ndQ	9週	倫理学に触れる1	近現代の倫理学の代表的ないくつかの立場とそれらの立場の問題点を理解するとともに、現代科学技術との関係についても考える。	
		10週	倫理学に触れる2	近現代の倫理学の代表的ないくつかの立場とそれらの立場の問題点を理解するとともに、現代科学技術との関係についても考える。	
		11週	倫理学に触れる3と、哲学対話の実践	近現代の倫理学の代表的ないくつかの立場とそれらの立場の問題点を理解するとともに、現代科学技術との関係についても考える。	
		12週	倫理学に触れる4と、哲学対話の実践	近現代の倫理学の代表的ないくつかの立場とそれらの立場の問題点を理解するとともに、現代科学技術との関係についても考える。	
		13週	哲学対話をつくろう1	これまでの授業をふまえ、自分で哲学対話を創作する	
		14週	哲学対話をつくろう2	これまでの授業をふまえ、自分で哲学対話を創作する	
		15週	期末試験	授業の内容を理解し、それを表現できる。	
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	

評価割合

	試験	授業参加、提出物等	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0